

評価者間の比較による授業評価システム

—授業改善・評価力の向上に役立つ評価シートの作成を目指して—

吉田佳恵¹

よりよい授業をつくるためには、授業計画に基づいた、授業内容や学習状況による授業評価が必要である。しかし、その実施には、評価項目の妥当性や評価の客観性をはじめとして様々な課題がある。本研究では、そうした課題を解決すべく、授業改善・評価力の向上に役立つ評価票「授業評価シート」の作成を目指し、「授業者・学習者・授業者以外の教職員」の三者を評価者として、評価者間での比較による授業評価システムの開発とその検証を行った。

はじめに

新学習指導要領では、「確かな学力」を育成し、「生きる力」を育むことを基本的なねらいとしている。高等学校においても、平成 15 年度から新学習指導要領が施行され、「自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」(高等学校学習指導要領総則)としている。

本県でも、「確かな学力の育成のための授業改善」の取組の一環として、平成 17 年度より全県立高校で、「生徒による授業評価」を実施することになっている。これは、授業内容や指導方法、生徒自身の取組状況について評価票(質問紙法)で回答を求め、その結果を授業の質の向上に生かすための取組である。

当センターでは今年度、生徒にとっての「わかる授業」「魅力ある授業」の実現をめざし、教員が望ましい授業の創造と工夫とを図るために、授業評価の方法やシステム等についての実践的な研究を行った。研究は、次の手順で進めた。

- ・ 授業評価に関する諸課題の整理
- ・ 授業評価システムの開発
- ・ 授業評価システムの検証
- ・ 研究のまとめ

具体的には、次の 3 種類の評価票を作成し、評価者間での比較による授業評価システムを開発した。

- 学習者用の授業評価シート
(自己学習、授業)
- 授業者用の授業評価シート
(授業、生徒の学習状況)
- 授業参観者(教職員)用の授業評価シート
(授業、生徒の学習状況)

本研究では高等学校を対象に評価シートを作成したが、授業評価に関する考え方や方法については、小・中学校でも参考になるものと考えている。

授業評価に関する諸課題の整理

「授業研究」としてこれまでも様々な研究がなされており、「授業評価」に焦点を当てた研究や実践も行われている。そこで、改めて諸課題を整理し、授業評価の考え方や方法について明らかにすることから研究を始めた。先行研究・先行文献及び調査研究協力員会での研究協議をとおして、次の項目について、課題とその対応策とを検討した。

- 1 授業評価の目的や意義、2 他の評価との関連、3 評価方法 [評価者、評価内容(観点)]、4 集計方法・分析方法、5 授業改善の方法、6 授業改善の検証方法、7 公表の仕方、組織、8 その他。

1 授業評価の目的や意義

これまでも授業者は自分自身の授業を評価するとともに、他者からの評価も受けている。よりよい授業づくりのためには授業評価を行い、授業改善を図ることは自明のことである。

「授業は意図的、計画的かつ系統的な営みであるがゆえに、必ず評価を伴わせる必要がある。」(現代教育評価事典)とあるように、授業は目的をもった計画により進められる。計画的に行うものであるからには必ず評価が必要となるのである。

授業評価の目的は、その授業により、「確かな学力」を育成し、「生きる力」を育むことができたかどうかを評価し、改善を行うということになる。

学習者による授業評価では、学習者が授業をどのように受け止めているかを把握し、そこから授業の課題を見出し、改善を行うということになる。そして、学習者が評価項目を通じて授業のねらいや学習の目標を知り、自己の学習に役立てることもできる。

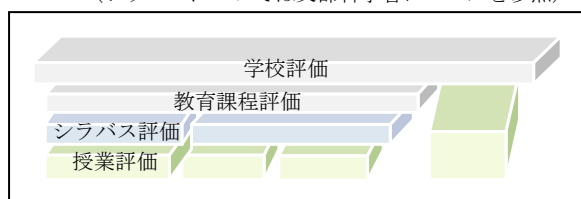
2 他の評価との関連

高等学校では平成 16 年度より学校評価を実施している。シラバス、学校の教育課程、そして学

1 研究開発課 研修指導主事

校の教育活動全体についても、それぞれに評価の必要があり、目的や方法等について、各評価の関連性を整理する必要がある。

(シラバスについては文部科学省ホームページを参照)



第1図 評価間の関連性

授業改善のための授業評価では、授業のねらいが達成されたかどうか、改善すべき点はどこかを明らかにすることを第一に考える必要がある。他の評価に活用する場合には、そのための集計方法・分析方法や項目を予め考えておく必要がある。

3 評価方法

評価方法については、様々な方法が考えられるが、評価の目的・評価者・評価時期によって適切な方法を選択することになる。学習者による授業評価では、質問紙法が用いられることが多い。

質問紙法は、アンケート調査でよく見かける方法で、調べたい内容に関する質問に対して、「はい・いいえ」などの簡単な様式で回答してもらう調査方法である。回答時間が短く、大量の回答を一度に集めることができ、数値データとして処理もしやすい。一方で、質問項目によって妥当性・信頼性など、調査の成否が決まるので、項目の作成が難しい。

授業改善にいかすための項目の作成にあたっては、質問紙の作成上の基本的な留意点と併せて、授業の課題や改善の視点が具体的になるような項目にする必要がある。

一般的な留意点としては次の点があげられる。

- ・一つの項目で一つのことを尋ねること。
- ・説明しなくてもわかる項目にすること。
- ・評価基準が分かれる項目は避けること。
- ・できるだけ具体的な内容に絞ること。
- ・予め分析方法を考えて項目を作ること。
- ・項目ごとに、評価の高低が意味するところと対応策とについて、予め想定しておくこと。

(1) 評価者

評価者については、授業を行っている本人(授業者)・授業を受けている生徒(学習者)・その他に分けられる。評価の際には、目的や評価の観点を明確にすることが肝要であり、評価者に対しては、目的やねらいを明確に伝える必要がある。

生徒による授業評価の課題としては、生徒による評価の妥当性や信頼性への疑問、生徒に迎

合することになるのではないかとといった危惧等が挙げられている。授業評価の目的の理解を図るとともに、授業のねらいを伝え、何について評価を求めているのかを伝えることが肝要である。同時に、生徒の評価力の育成を図ること(評価学習)が重要である。そのために、複数の評価者の評価を比較して、より客観的なデータを示す方法が考えられる。

(2) 評価内容(観点)

評価内容(観点)には、作成者の授業観が表れる。これは、評価を通じて評価者に授業観を伝えることができるということでもある。

今授業に求められていることは何か、学校が目指している授業とは何かを明確にするとともに、計画に照らした評価内容にする必要がある。

4 集計方法・分析方法

目的・評価者・評価時期によって異なるが、ここでは質問紙法について取り上げる。

(1) 集計方法

評価結果の速やかな活用や評価の継続性などを考えると、記入や集計にあたり、負担がかからない方法や項目数にする必要がある。評定尺度法(程度や頻度という形でいくつかの段階を設定し、その中から選択してもらう方法)が簡便な方法であるが、回答者数が多い場合には集計に時間がかかる。当センターで公開している「マークシート(OMR)処理システム」の活用が考えられる。

(2) 分析方法

どのような分析方法にするかについては、項目を決める際に予め考えておく必要がある。集計と同様に結果の速やかな活用や評価の継続性等、並びに評価結果の共有化や公表について考えると、表計算ソフトでの処理が簡便であり、グラフで表すとわかりやすい。

一方で、数値として具体的に示されるだけに、データの扱いには注意が必要である。厳密に言えば、データの尺度(4種類)によって処理方法が異なり、代表値(資料の特徴や傾向を示す客観的な尺度となる数値)の表現の仕方も異なる。評価結果の比較の際にも注意が必要である。異なる項目はもちろん、条件が違う場合の比較には慎重でありたい。

(4種類: 間隔尺度、比率尺度、順位尺度、名義尺度)

(代表値: 平均値・最大値・中央値・モードなど。)

数値データで得られることには限界があるということ踏まえ、作成した質問紙でわかること、わからないことを明確にしておくことが肝要である。

5 授業改善の方法

改善に向けて重要なことは、授業者自身が評価結果について分析・考察することである。授業の課題を明確にし、多角的な視点から改善方法を考え、次の授業の授業案を作成することである。

校内研修会や教科担当者間での授業に関する研究協議も有効な方法である。ただし、同じ教科(科目)で目標が同じであっても、クラスの状況は異なるため、全てのクラスで同じように授業が進められるとは限らない。クラスごとに、また個々の生徒の学習状況に応じた工夫が必要である。

授業を構成する要因は数多くある。学習者の反応によって授業の進め方を変えることになり、計画どおりにはいかないことも多い。授業の展開は基本的に授業者一人にかかっており、授業者各々の実践的指導力の向上が必要となる。そのためにも授業計画を立てる段階で、様々な状況を想定して、工夫を図ることが重要である。

6 授業改善の検証方法

授業が改善されたかどうかの検証方法が授業評価システムの要ではあるが、同時に最も難しい点でもある。授業が変わったかどうかで判断することになるが、授業スキル(板書など)は改善や検証がしやすい。一方で、学習状況が改善されたかどうかなど、長期的な検証が必要なものもある。また、同じ学習者でも内容や教材などが変わることから条件が異なり、授業の比較自体が難しい。

授業評価を実施した後の授業に関して、授業の課題を踏まえた授業案となったかどうかを見ることも、検証方法の一つである。この他に、評価票の中に比較のための総合的な評価の項目を入れておく、あるいは授業評価に関する情報を様々な方法で収集するといった方法も考えられる。

7 公表の仕方、組織

評価の目的・評価者・評価時期及び情報公開の対象者によって公表の仕方は異なるが、他の評価との関連性と併せて各学校で検討する必要がある。学習者による授業評価では、学習者に何をどのように伝えるか、評価結果を学校内でどのように活用するかについて検討することが重要である。

授業評価を行う組織についても、各学校の実情によって異なることになる。

8 その他

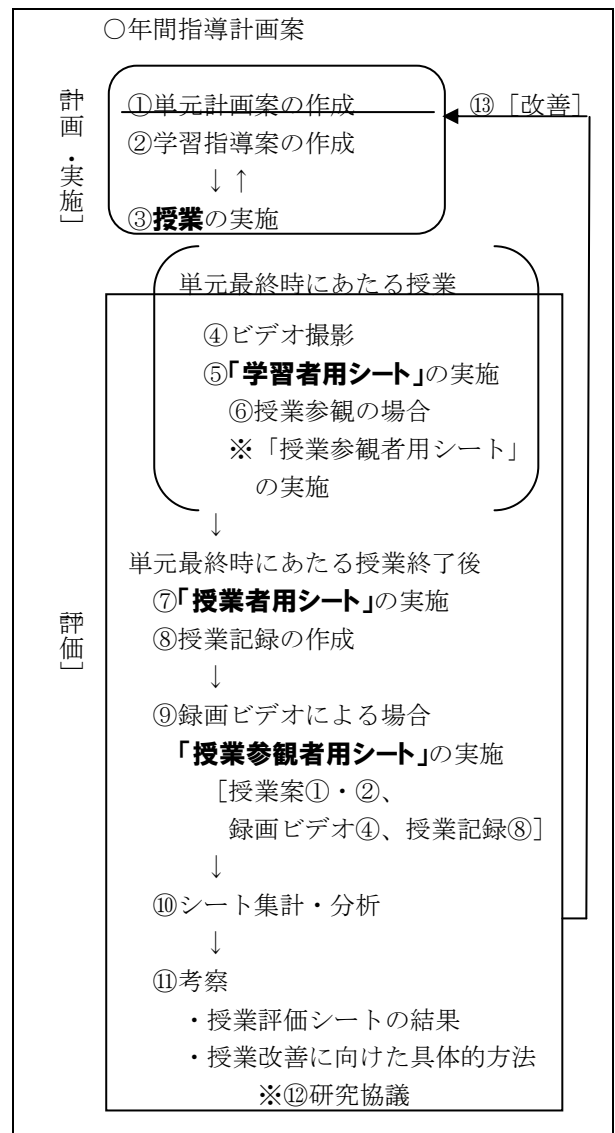
評価者名を記名にするか無記名にするか、他の教員の授業を見る時間がないといった課題があげられる。これらについては今回開発した授業評価システムの中で取り上げることとする。

授業評価システムの開発

授業評価に関する諸課題(検討結果)を踏まえ、授業評価システムを開発した。

1 授業評価システムの目的

授業のねらいが達成されたのかどうか、それはどのような要因によるものなのか。改善すべき点はどこか。これらを明らかにし、授業改善やその後の授業づくりに役立てることをねらいとした。また、限られた時間の中で効率的に実施できるシステムを目指した。今回開発したシステムは、第2図の④~⑫の箇所である。



第2図 授業評価の全体像

2 授業評価の観点

評価の観点としては、次の二つが考えられる。一つは、授業(計画・実施・結果)を評価することである。もう一つは、学習者の学習状況を知ることである。授業のねらいが達成されたかどうか

かは、学習者の学習状況を確認することによって判断されることになるからである。

また、学習者が授業への評価と併せて自己の学習状況の評価することで、授業の成果には自己の取組が大きく関わっていること、授業のねらいを知り、何を目標にどのように取り組めばよいかを改めて認識することにもつながる。ひいては、自己教育力・自己学習力及び評価力の育成につながることもできる。

項目別の観点は、第3図のとおりである。

3 授業評価の方法

(1) 具体的な評価の方法

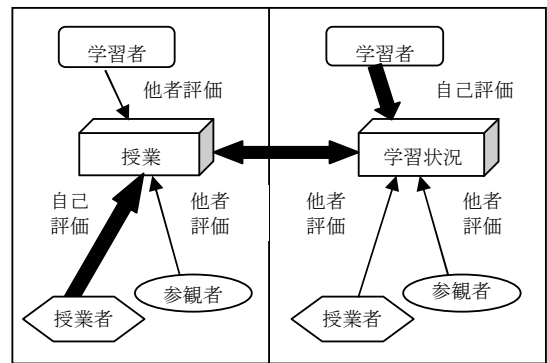
簡便に評価ができること、複数の評価者間での比較ができ、より客観的であることなどの理由から、質問紙法による評価票「授業評価シート」を作成することとした。

3種類の「授業評価シート」を作成し、各シートはA4版で1枚とした。(第5図～第7図)

(2) 授業評価者

授業者・学習者(生徒)・授業者本人以外の教職員を評価者とした。

授業者・学習者は、授業の当事者であるので、第三者の評価を加えることでより客観的な評価データを得ることができると考え、教職員を評価者として加えた。(第4図)



第4図 評価者間の関連性

(3) 評価時期

授業改善に役立て、その後の授業づくりにいかすためには、短いサイクルで行うことが望ましいことから、単元(題材のまとまり)を一つの単位として評価することとした。

		授業者用・参観者用	学習者用			
授 業	画 (備)	1 単元のねらいの明確化 (わかるように説明したか)	1 学習目標()の理解 (理解して授業に臨んだか)	学 習 状 況	備 (業前後)	
	施 (開)	2 授業の準備 [① 授業形態、② 授業案] * 詳細な2項目を用意	2 授業内容についての準備 [① 予習、② 復習] * 2つの下位項目を用意		業 (業)	了 (果)
		3 学習意欲の喚起(工夫)	3 積極的な取組 [① 理解、② 思考] * 詳細な2項目を用意			
		4 内容の理解(工夫)	4 内容()の理解 (おおむね理解できた) * 理解に関する成果の確認			
		5 単元のねらいの達成状況 (おおむね達成された) * 内容の確実な定着のため	5 (<育てたい>)力 (する力がついてきたか) * 力に関する成果の確認			
		6 自ら学び考える力(工夫) * 自ら学び考える力の育成のため	6 内容に関して気づくこと (今後の課題、問題点) * 興味・関心、発展的な内容			
		7 ねらいに応じた教材・教具 [① 板書、② プリント] * 2つの下位項目を用意	7 学習に役立つ教材・教具 [① 板書、② プリント] * 2つの下位項目を用意			
	果 (果)	8 適切な進捗	8 適切な進捗 ※早い・遅い (自分の理解度から見て) * 適切でない理由を用意			
		9 学習状況に応じた指導(工夫)	9 学習状況に応じた授業 (クラス全体の学習状況)			
		10 集中できる学習環境 (配慮)	10 クラス全体の雰囲気 (集中できる雰囲気)			
記述：興味・関心をもった点、難しかった点、学習全般について						

第3図 評価項目のその観点

4 授業評価シート

項目の作成にあたり、次の観点から必要な項目をあげ、整理した。

- ・ 授業者として、授業改善や授業づくりのために知りたいこと。
- ・ 生徒の取組や学習状況として確認したいことや、評価力を高めるために役立つこと。
- ・ 他の教員の授業を観察し、授業改善や授業づくりに役立てるために必要なこと。

各シート10項目、5段階の評定尺度法とした。授業者用・授業参観者用シートについては、学習状況の評価する項目を4つ追加した。作成する上で工夫した点は次のとおりである。

- ・ 立場の異なる評価者間での比較ができるように、シート間で対応する項目とした。
- ・ 全ての教科(科目)で活用できるような質問項目とした。そのため、学習者用シートの項目1・4・5については、教科(科目)ごとに記入するように空欄を設けた。
- ・ 項目2・7には、下位項目を設けた。
- ・ 質問項目以外の具体的な内容を知るために、それぞれに記述欄を設けた。
- ・ 学習者の成績評価や人物評価、または授業者の人物評価に直結するような内容にならないように配慮した。

【授業者用】		実施日 平成16年10月 日				
授業評価シート(授業の振り返りと生徒の学習状況)						
授業者名						
【ねらい、指導上の留意点について】						
(教科 科目):学習単元(題材)「			」について			
とても やや どちら あまり まったく そう思う そう思う ない わない そう思 わない						
番号	評価項目	評価状況				
1	単元(題材)のねらい(目標)をわかるように説明した。	5	4	3	2	1
2	授業の準備を十分に行った。	5	4	3	2	1
	2-① 単元(題材)ねらいに応じた授業形態で行った。	5	4	3	2	1
	2-② 生徒の理解度に応じて授業案を工夫した。	5	4	3	2	1
3	生徒の学習意欲を喚起するように工夫した。	5	4	3	2	1
4	内容が理解できるように工夫した。	5	4	3	2	1
5	単元(題材)のねらいはおおむね達成された。	5	4	3	2	1
6	自ら学び考える力をつけるように工夫した。	5	4	3	2	1
7	単元(題材)のねらいに応じて教材・教具を工夫した。	5	4	3	2	1
	7-① ねらいに応じて板書を工夫した。	5	4	3	2	1
	7-② ねらいに応じてプリントを工夫した。	5	4	3	2	1
8	適切な進度で授業を行った。	5	4	3	2	1
9	生徒の学習状況に応じて指導を工夫した。	5	4	3	2	1
10	授業に集中できるように学習環境に配慮した。	5	4	3	2	1
S3	生徒は授業に積極的に取り組んでいた。	5	4	3	2	1
	S3-① 生徒は内容が理解できるように取り組んでいた。	5	4	3	2	1
	S3-② 生徒は自分自身で考えるようにしていた。	5	4	3	2	1
S4	生徒は内容()をおおむね理解した。	5	4	3	2	1
【自由記述】						
単元(題材)を終えて、良かった点や今後の課題について						

第6図 授業者用の授業評価シート

【学習者用】		実施日 平成16年10月 日				
授業評価シート(自己学習状況の振り返りと授業)						
年 組 No. 氏名						
※無記名でも構いません。						
(教科 科目):学習単元(題材)「			」の授業についてお聞きします。			
とても やや どちら あまり まったく そう思う そう思う ない わない そう思 わない						
番号	評価項目	評価状況				
1	学習の目標()を理解して授業に臨んだ。	5	4	3	2	1
2	授業内容について準備をして授業に臨んでいた。	5	4	3	2	1
	2-① 予習をして授業に臨んでいた。	5	4	3	2	1
	2-② 復習をして授業に臨んでいた。	5	4	3	2	1
3	授業に積極的に取り組んだ。	5	4	3	2	1
	3-① 内容が理解できるように取り組んだ。	5	4	3	2	1
	3-② 自分自身で考えるようにしていた。	5	4	3	2	1
4	内容()についておおむね理解できた。	5	4	3	2	1
5	()する力がついてきた。	5	4	3	2	1
6	内容に関して気づくことがあった。(今後の課題、問題点)	5	4	3	2	1
7	先生が用意した教材・教具は学習に役立った。	5	4	3	2	1
	7-① 板書は学習に役立った。	5	4	3	2	1
	7-② プリントは学習に役立った。	5	4	3	2	1
8	自分の理解度から見て、授業の進度はちょうど良かった。 ※8で、2か1に○をつけた人だけにお聞きします。 早かった ・ 遅かった	5	4	3	2	1
9	クラス全体の学習状況に応じて授業が進められていた。	5	4	3	2	1
10	クラス全体として授業に集中できる雰囲気だった。	5	4	3	2	1
【次の項目について具体的に記入して下さい。】						
＜興味・関心をもったところ＞						
＜難しかったところ＞						
【自由記述】						
学習を終えて、これから復習などを行う上でアドバイスをいただきたいことや、この単元(題材)での学習全般についての感想などを記述する欄として活用してください。						

第5図 学習者用の授業評価シート

【授業参観者(教職員)用】		実施日 平成16年10月 日				
授業評価シート(授業状況と生徒の学習状況)						
授業参観者名						
【ねらい、指導上の留意点について】						
(教科 科目):学習単元(題材)「			」の授業についてお聞きします。			
とても やや どちら あまり まったく そう思う そう思う ない わない そう思 わない						
番号	評価項目	評価状況				
1	単元(題材)のねらい(目標)が明確だった。	5	4	3	2	1
2	授業の準備を十分に行っていた。	5	4	3	2	1
	2-① 単元(題材)ねらいに応じた授業形態で行っていた。	5	4	3	2	1
	2-② 生徒の理解度に応じて授業案を工夫していた。	5	4	3	2	1
3	生徒の学習意欲を喚起するように工夫していた。	5	4	3	2	1
4	生徒が内容を理解できるように工夫していた。	5	4	3	2	1
5	単元(題材)のねらい(目標)が達成されるように工夫していた。	5	4	3	2	1
6	生徒に自ら学び考える力をつけるように工夫していた。	5	4	3	2	1
7	ねらい(題材)に応じて教材・教具を工夫していた。	5	4	3	2	1
7	7-① ねらいに応じて板書を工夫していた。	5	4	3	2	1
	7-② ねらいに応じてプリントを工夫していた。	5	4	3	2	1
8	適切な進度で授業を行っていた。	5	4	3	2	1
9	生徒の学習状況に応じて指導を工夫していた。	5	4	3	2	1
10	生徒が授業に集中できるように学習環境に配慮していた。	5	4	3	2	1
S3	生徒は授業に積極的に取り組んでいた。	5	4	3	2	1
	S3-① 生徒は内容が理解できるように取り組んでいた。	5	4	3	2	1
	S3-② 生徒は自分自身で考えるようにしていた。	5	4	3	2	1
S4	生徒は内容()をおおむね理解した。	5	4	3	2	1
【自由記述】						
単元(題材)を終えて、良かった点や具体的な改善方法について						

第7図 授業参観者(教職員)用の授業評価シート

5 集計方法・分析方法

集計については、今回は実施したクラス数が少ないことからマークシート方式はとらなかった。

分析については、表計算ソフトを活用して4類のグラフを作成することとした。第8図～第10図がその表示例である。なお、評価者数が異なる評価者間での比較となることから中央値（データを小さい順に並べたときに、最小値・最大値から数えて中央にくる値）を用いることとした。

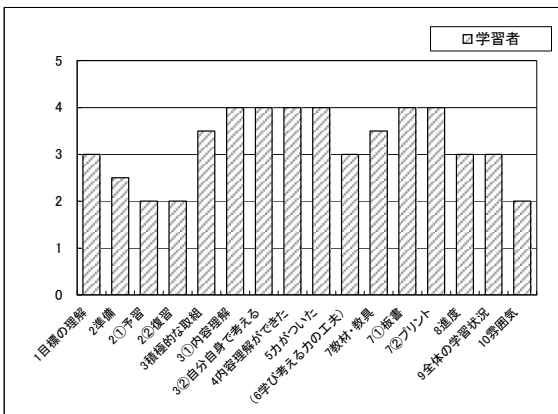
第8図は学習者の評価結果を示したものである。第9図は、学習状況のうち、学習者の取組と成果の一部とについて、学習者による他者評価並びに授業者と参観者による他者評価の結果を示したものである。

第10図は授業者・参観者の評価結果を示したものである。第11図は学習者・授業者・参観者の評価結果を示したものである。

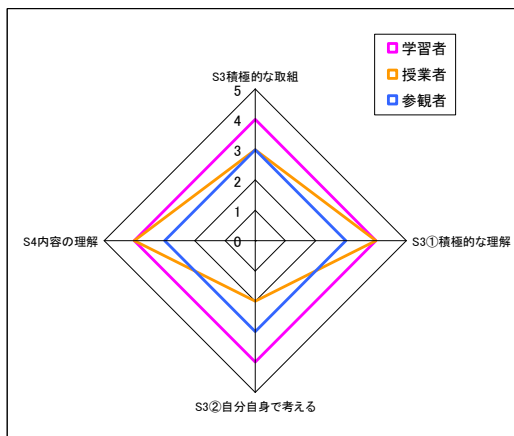
いずれもグラフにすることで、評価者間での評価結果の違いを視覚的に捉えることができるようにした。

なお、複数クラスで実施した場合には、クラス別のグラフも作成することとした。

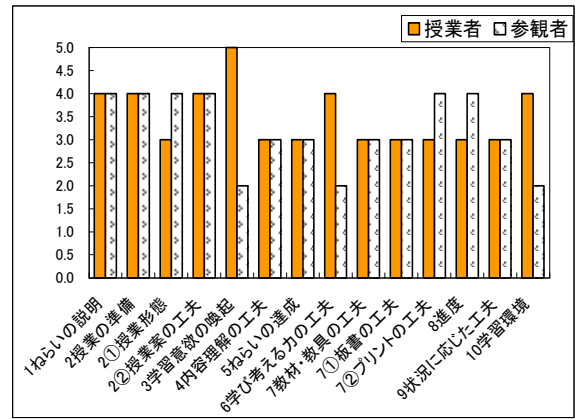
自由記述は内容から分類することとした。



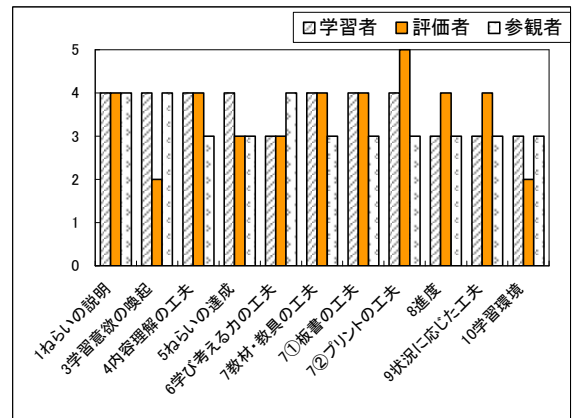
第8図 学習者の評価結果（中央値）



第9図 学習者に対する三者の評価



第10図 授業者・参観者の評価結果



第11図 三者の評価結果

6 授業改善の方法

改善方法としては、グラフ及び自由記述を基に、授業評価シートの結果について、具体的に記述することで分析を行った。あわせて、授業改善に向けて、改善のための具他の方法について記述することとした。

また、授業評価を実施した後の授業に関して、授業評価を踏まえた授業案（単元指導計画案・学習指導案）を作成し、その授業の単元終了時に授業者用の授業評価シートを実施することとした。

授業評価システムの検証

1 検証方法

開発した授業評価システムの有効性や妥当性について検証を試みた。調査研究協力員の協力を得て、実際の授業（4科目）において「授業評価シート」を使つての授業評価を実施した。手順は第2図の①～⑬のとおりである。

なお、⑥（授業参観）及び授業参観後の研究協議については、一部のクラスで実施した。他のクラスについては、⑨の形で（授業案①・②、録画ビデオ④、授業記録⑧により）実施した。

2 結果と考察

授業評価の結果については、グラフによる評価者間での比較や分類した自由記述をとおして、それぞれの授業者で分析を行った。また、授業改善に向けた具体的な方法についても、それぞれの授業者が検討を行った。

こうした経緯をふまえて、授業評価システムについて、授業評価シートの有効性や課題を中心に検討を行った。

(1) 有効性（授業改善に役だった点）

- ・評価者間での評価の差が顕著に表れ、差のある箇所が授業の課題であることがわかった。
- ・単元終了時の評価であるので、授業の課題や改善点について分析がしやすく、改善のポイントが絞れた。
- ・記述欄は具体的な記載が多く、学習状況の把握や改善点が明確になった。
- ・クラス別に評価結果をグラフにして比較することで、クラスの特徴を把握しやすい。
- ・[記名欄を設け、「無記名でも構いません。」という一文を加えた。] 記名した回答者も多く、記名の方が無責任な評価や記述が少なく、切実な要望が増え、その後の指導に生かせる。

(2) 課題（授業評価シートの改善点）とその検討 学習者用の評価シートについて（第5図参照）

- ・項目2、3、7は小項目が重複するのでまとめる方向で検討する。
- ・項目6、7、9は回答しにくいようなので表現を工夫する。
- ・項目番号の前に、項目のまとまりを示す表題を入れた方が評価しやすい。
- ・[中間項（「どちらともいえない」）のある5段階の評定尺度とした。] 評価3に回答が集まった項目があり、改善につなげにくいことや、評価力を高めるために、中間項を設けない4段階の評定尺度にする方がよい。
- ・学習者の評価結果を単独で扱う場合には、割合（%）で示す方法もあるが、回答数が少ない場合には少数の回答でも数値が上がるという課題がある。中央値との併用が考えられる。

以上のことから、授業評価シートには改善の必要な箇所があるものの、授業評価システムとしては改善につながる方法として有効であることがわかった。

3 授業評価シートの改善点

授業評価シートの改善に向けて、学習者用シートを中心に検討を行った。他の二つの授業評価シートについてはそれに併せて変更した。（第1表及び第12図参照）

第1表 改善後の項目（※網掛け部分に変更箇所）

No	学習者用	授業者用・参観者用
1	学習目標の理解	単元のねらいの明確化
2	授業準備 *3項目を並列で設けた。	授業の準備 [①授業形態、②授業案]
3	内容理解のための取組	内容理解（工夫）
4	主体的に考える取組	自ら学び考える（工夫）
5	学習してみたい事の有無	学習意欲喚起（工夫）
6	目標の達成状況 [①学習内容、②する力]	単元のねらいの達成状況
7	教材・教具 *3項目を並列で設けた。	教材・教具（工夫） *3項目を並列で設けた。
8	授業の進度 ※早い・遅い	授業の進度
9	学習状況に応じた工夫	状況に応じた指導（工夫）
10	クラス全体の雰囲気	学習環境への配慮

【学習者用】		実施日 平成 年 月 日			
授業評価シート(自己学習状況と授業状況)					
		年 組 No.	氏名		
		<small>※無記名でも構いません</small>			
(教科 科目):		学習単元(題材)「 _____ 」の授業についてお聞きします。			
		<small>とても やや あまり まったく そう思う そう思う そう思う そう思わない</small>			
番号	評 価 項 目	評 価 状 況			
1	学習の目標(_____)を理解して授業に臨んだ。	4	3	2	1
学習 への 取組 につ いて	2 A 学習内容について準備をして授業に臨んでいた。	4	3	2	1
	B 予習をして授業に臨んでいた。	4	3	2	1
	C 復習をして授業に臨んでいた。	4	3	2	1
授 業 に つ い て	3 内容が理解できるように取り組んだ。	4	3	2	1
	4 自分自身で主体的に考えるようにしていた。	4	3	2	1
	5 学習してみたいと思うことがあった。	4	3	2	1
授 業 に つ い て	6 6-① 学習内容(_____)についておむねを理解できた。	4	3	2	1
	6-② (_____ する力)ができてきた。	4	3	2	1
	7 A 先生が用意した教材・教具(_____)は学習に役立った。	4	3	2	1
授 業 に つ い て	B 板書は学習に役立った。	4	3	2	1
	C プリントは学習に役立った。	4	3	2	1
	8 自分の理解度から見て、授業の進度はちょうど良かった。 ※8で、2か1に○をつけた人だけにお聞きします。	4	3	2	1
授 業 に つ い て	9 クラスの学習状況に応じて工夫がなされていた。	4	3	2	1
	10 クラス全体として授業に集中できる雰囲気だった。	4	3	2	1
【次の項目について具体的に記入して下さい。】					
＜興味・関心をもったところ＞					
＜難しかったところ＞					
【自由記述】 学習を終えて、これから復習などを行う上でアドバイスをいただきたいこと、この単元(題材)での学習全般や授業についての感想などを記述する欄として活用してください。					

第12図 改善後の学習者用の授業評価シート

4 その他

授業者用の評価項目については、人物評価に直結しないように留意するとともに、基礎的なスキル（声の大きさ、文字の見やすさ等）については、質問項目として取り上げなかった。教材研究・授業計画案の作成・授業の実施（展開）・学習評価・授業評価といった点での力量を高めることは、教員という職業を鑑みれば自明のことである。他方で、校内研修会の活性化も重要である。

各学校や各教科の特性によって、評価項目を工夫することになるが、授業のねらいが達成されたかどうかについて、及び確かな学力の育成が図られたかどうかについては、共通の評価の観点である。

本研究では、授業評価に関する諸課題を整理した上で、授業改善・評価力の向上に役立つ「授業評価シート」の作成を目指した。「授業者・学習者・授業者以外の教職員」それぞれに授業評価シートを作成し、評価者間での比較による授業評価システムを開発し、検証を行った。

評価者間の比較による評価方法（評価シートとその分析）については、改善につながる方法としての有効性が得られた。単元（題材のまとまり）を一つの単位としての評価は、改善に役立つものであった。

長いスパンでの評価では、印象的な評価になりやすく、改善につなげにくいことから、具体的に聞く方法を工夫する必要がある。単元ごとの実施ではなく、年2回といった長いスパンでの実施でも、授業のねらい・理解させたい内容・つけたい力といった具体的な項目を取り上げることはできる。第2表のように単元ごとに示す方法以外にも、長期スパンでのねらいやつけたい力を示す方法もある。

第2表 長期スパンでの項目例

単元(題材)名 (時期)	目標を理解 し臨んだ。	内容が理解 できた。	力がついて きた。
1 ○○○ (4月～)	()	()	()
	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
2 ○○○ (5月末～)	()	()	()
	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

最大の課題は、授業が改善されたかどうかの検証方法である。本研究では、授業評価シート実施後に、授業改善の工夫をした授業の実施、及び「授業評価シート」の実施する方法について検討した。授業案・評価結果の比較を通じて、授業が改善したかどうかを検証することを考えている。また、授業改善の検証にあたっては、年間を通じての授業評価が必要であると考えている。これらは今後の研究課題である。

質問紙法による授業評価は、授業改善及び授業づくりのための一つの方法である。他の評価方法との併用についても検討する必要がある。

学習評価を通じた授業評価は必要不可欠である。一方で、基礎的・基本的な内容の確実な定着並びに自ら学び自ら考える力の育成といった点の検証もまた難しい課題である。

評価が良いと励みになるが、評価の良し悪しだけでなく、授業の当事者としての授業者と学習者とが、授業のねらいや学習の目標を共有し、充実感や達成感をも共有できる授業を模索したい。学習者に対しては、何をどのように伝えるかを十分に検討した上で、速やかな、かつ十分な説明が重要となる。

評価者の評価力を高める方法についても、研究の必要があると考えている。

平成17年度から本県立全高校で始まる「生徒による授業評価」では、項目を大・中・小に分け、小項目の内容や評価項目の追加については学校ごとに工夫することになる。育てたい生徒像や目指す授業を改めて確認することから始めたいところである。その際に、本研究が参考になることを願うとともに、各学校の取組を支援するために更に研究や開発に取り組んでいきたい。

最後になるが、国立教育政策研究所・総括研究官の工藤文三先生には、御多忙にもかかわらず、本事業「授業評価に関する研究」のスーパーバイザーとして御助言を頂き、心よりお礼申し上げます。また、調査研究協力員の先生方に深く感謝申し上げますとともに、協力員所属の皆様にも感謝申し上げます。

[調査研究協力員]

県立七里ガ浜高等学校 伊原 伸一郎

県立商工高等学校 黒田 健夫

県立岩戸高等学校 高木 晴男

県立柏陽高等学校 松木 謙一

[助言者]

国立教育政策研究所 工藤 文三

引用文献

- 文部科学省 2004 『高等学校学習指導要領（平成11年3月）』 国立印刷局 p.1
 水越敏行 1988 「授業評価」(東洋、梅本堯夫、芝祐順、梶田叡一『現代教育評価事典』 金子書房) p.316

主な参考文献

- 東洋他編 1988 『現代教育評価事典』 金子書房
 稲垣忠彦、佐藤学 1996 『授業研究入門』 岩波書店
 香取草之助監修 1995 『授業をどうする!』 東海大学出版会
 工藤文三 2003 「学習の評価の改善をどうサポートするか」(葉養正明編『「確かな学力」を保障する新しい学校経営』教育開発研究所 pp.196-197)
 佐藤学 1997 『教師というアポリアー-反省的实践へ-』 世織書房
 田中富彌 1990 『新教育学大辞典』 第一法規出版
 水越敏行 1985 『授業改造と学校研究の方法』 明治図書出版社
 高知県教育委員会 「授業評価システム」 <http://www.kochinet.ed.jp/koukou/gaku/jugyohyoka.htm>
 宮城県立宮城野高等学校 「平成14年度宮城野高校 授業評価・学校評価について」 <http://miyagino.myswan.ne.jp/section/04planning/evaluation.html>
 文部科学省 「大学における教育内容・方法の改善等について」 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/003.htm (ホームページは全て2月現在)